

2025年 6月 探究保育 活動報告書 キッズガーデン浜田山

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 くじら 組	6 月 19 日 (木)	鈴木

● 実施計画

活動テーマ		
身近な虹がどこから来るのか、何でできているのかを考える。物の不思議を体感し、探求のきっかけにする。		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
戸外遊びで虹を見つけると保育者や友達に伝え、見れたことを嬉しそうにする。また、水遊びでシャワーを使用すると、水が太陽に反射して虹が見えることを昨年度の水遊びで発見している。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:30	・天気現象について話す。雨や雲、雷のほかに虹もあることを知る。	・実験ができるように3チームに分かれてテーブルを用意し環境を作る。はじめは天気や虹の仕組みについて保育者の問いかけに答えるため、椅子に座り保育者が見える位置で話を聞く。実験用具はそれぞれ3セット(アルミホイルを付けた懐中電灯、ペットボトル、A3のコピー用紙)準備しておく。
10:45	・虹がどんなものを発表する。3グループに分かれて話し合い、それぞれのグループで発表する。 ・何色があるか、どんなときに見られるかなどを話す。	
10:50	・虹が出る実験をする。アルミホイル、懐中電灯、ペットボトルを使って虹の光を見る。実験は保育者が行うのを観察する。	
11:00	・実験で見た虹を観察し、雲が描かれたイラストに模写する。	

11:15	・描いたイラストを見せ合い、光を当てると虹が出ることを理解する。	
-------	----------------------------------	--

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・天気の話から『虹』の話を持ち掛け、虹はどんな時に現れるのかを考えた。さらに虹はどんなものか、どんな物質できていると思うかを自由に答え話し合った。「雨」(水)と「太陽の光」から虹は見えると考え、実際に懐中電灯と水を使って実験をする。自分で虹を作り、何色が見えるかをグループの友達と話し合う。見えた虹の色を紙に描き見せ合う予定だったが、実験に時間をとり、次回の活動に行うことにした。</p>	<p>・天気の種類に『虹』があることをすぐに答えていた。『虹見たことあるよ』『雨が降った後に見える』『太陽が出てると見える』『空の高いところに見える』などの声上がり、虹についてよく考えを持っていた。『虹はどうやってできるの?』と疑問を持っていたことで、虹が何でできるのかを話しながら考えた。太陽の光と雨に見立てた懐中電灯とペットボトルの水では、積極的に実験に取り組み、順番に水に光を当てて虹を観察していた。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・天気の話毎週していたことで、『虹』についての興味関心も高く集中して取り組んでいた。水遊びでシャワーを太陽の光に当てると虹が出ることを前日の水遊び中に確認していたこともあり、みんなで確認しながらできたことがよかった。実験では、「みんなが懐中電灯を持ってやってみたい」という木森が強く、予定よりも長く観察の時間をとった。自分でやってみて気づけること、あたら祖生疑問も埋めれると思うため、できる範囲で少人数で実験ができるような環境を作っていきたい。</p>	<p>・子どもたちが日常出会っている現象や事柄を自分の言葉で表現したり、他者に伝え合うことができる場を、この活動は提供するという点でいい機会を与えられていると思った。 ・個々が自分のペースで試すことができる場所を設置できるとよい。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 くじら 組	8 月 12 日 (火)	鈴木詩織

● 実施計画

活動テーマ	
たべもの～野菜～野菜を観察してみよう	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
給食や家庭の食事に使用されている野菜の名前を覚えたり、「これはなに？」と野菜に興味をもっている。好きな野菜や苦手な野菜について友だちと話したりする様子が見られる。	
活動スケジュール	
時間	内容
10:00	・前回の振り返り(みずについて)を行う。
10:10	・水がないと生きていけないものの中で、野菜もあることを伝え、テーマを伝える。
10:15	・野菜カードを使いどんな野菜があるか調べる。図鑑や絵本を読んで紹介する。
10:20	・野菜の観察の提案をする。 ・野菜(人参、コマツナ、じゃがいもなど)の観察をする。虫眼鏡を配布し、使い方を説明する。
10:30	・グループに分かれてそれぞれが虫眼鏡の観察で発見したことを発表する。 ・模造紙に書き、まとめる。
10:40	終了
環境設定 ・ 準備物	
【環境設定】 ・安全に探究できるよう環境を設定する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切に。 【活動使用教材】 ・野菜の実物を数種類 ・虫眼鏡 ・野菜の絵本図鑑 ・包丁 ・まな板 ・ホワイトボード ホワイトボードマーカー 【事前準備】 ・虫眼鏡の使用方法を設定しておく。 ・観察スペースの設定をしておく。 ・種の有無や根菜、葉野菜など比較ができるよう野菜を数種類選定する。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・事前にコンテンツで届いていた野菜の絵本を読んだことで、切り捨てる部分の野菜を水につけて経過を観察することが出来た。人参の観察をしているが、3日ほどで茎になる部分が出てきた。また、野菜の虫眼鏡での観察は次回に変更し、虫眼鏡を使った夏の植物や生き物の観察をした。セミやアリなどを拡大して見れたことで、夢中になって観察する姿が見られた。特にアリの巣の中を見れた際には気が沢山見えたことで、巣の中に興味を持っていた。	・野菜の切り捨てる部分からまた再生して育っていく様子を図鑑から学び、実際に保育室で育てたことで、「捨てる部分の野菜も生きてるんだ」「葉っぱが生えてくるのすごいね」と新しい発見に驚いている様子だった。野菜の名前は献立表を見て給食を食べていることで、覚えている児が多かった。給食のメニューを見て「これはなんていう野菜？」と、尋ねる機会も増えている。虫眼鏡を使った活動では、戸外で使用できたことで、より活動的に使用できた。「アリの足は何本あるかな？」と、友だち同士で観察し合っていた。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・切り捨てる部分の野菜から実際に育っていく様子を見ることが出来て、子どもたちが予想以上に驚いていたことが興味深かった。何気なく食べている野菜にはまだまだ知らないことがあると探求心が芽生えていたため、今後も視野を広げて食育や戸外遊びでもたべもののコンテンツに触れていきたい。また、虫眼鏡は他の遊びでも観察の道具として活用できるため、重宝していきたい。	捨てられてしまう部分から新たに芽が出て来ることに驚く姿が可愛かった。これをきっかけに「知らないことがある」ことにくわくする感じが感じられる活動だった。好き嫌いの多い野菜の活動を通して子どもたちが何を感じ取っていくのか楽しみである。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 くじら 組	1 月 5 日 (月)	鈴木詩織

● 実施計画

活動テーマ		
アート～この絵どんな絵？～ 好きな絵を見つけてみよう！		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
製作やお絵描きを楽しみ、描いたものを友だちや先生に見せて「これが好き」「これは〇〇みたい」と話している。絵本やポスターをながめながら、好きな絵や印象に残る場面を選ぶ姿がある。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
16:00	・さまざまな名画をスライドや図鑑で提示し、「どれか見たことがあるかな？」と問いかける。	【環境設定】 ・絵画の画像や図鑑が見やすいように環境を整える。 ・子どもたちが自由に調べることができるように資料を十分に準備する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を重視する。
16:15	・「どこで見たことがある？」「どんなところが気になる？」と興味を引き出す。 ・「どの絵が好きかな？」と問いかけ、それぞれが気に入った作品を選ぶ。 ・「なぜその絵が好き？」と考え、意見を発表する機会を作る。	
16:40	・英字新聞を使ったスクラップを行なう。 ・絵画からヒントを得て、絵を作ったり、文字を書いてみたりする。 出来たものを発表する。	【準備物】 小学館の図鑑NEOアート 図解 はじめての絵画 (小学館の図鑑NEOアート) ・ホワイトボード ・英字新聞 ・糊、ハサミ 【事前準備】 添付資料の内容を読み込む。 資料を人数分プリントし、冊子を作る。 図鑑の該当箇所を用意し、作品を調べる材料にする。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
子どもたちは、さまざまな絵画に興味をもち、それぞれ好きな作品を見つけたことができた。最初は「見たことがある」程度の認識だったが、調べるうちに技法や画家に関心をもち、「この絵はどうやって描かれたの？」とさらに深く考える姿が見られた。スクラップでは、みんなで取り組む中でアイデアを募ったり一緒に作品を作るすがたも見られた。	【子どもの姿・声】 ・「この絵、どこかで見たことある！」と興味を示す姿があった。 ・「なんでこんな色の使い方をしているんだろう？」と作品の特徴に気づく発言があった。 ・「私はこの絵が好きだけど、〇〇ちゃんは違うんだね！」と友達の意見を尊重する様子が見られた。 【保育者との関わり】 ・「どの絵が気になる？」と問いかけ、興味の幅を広げる。 ・「どんなところが好き？」と具体的に考えられるようにする。 ・「同じ絵でも、見方によって違う感じ方があるね」と多様な視点に気づくことができるようにする。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・子どもたちは、最初は漠然と「なんとなく好き」と感じていたが、調べていくうちに「色がきれいだから」「形が面白いから」など具体的な理由を見つけていくことができるようになった。 ・白黒の英字新聞を使うことで、「色の遣い方」や白黒ならではの表現の仕方を感じる姿が見られた。折り紙などを使っても良いと思っていたが、白黒ならではの表現の展開が見られてよかった。	好きにも色々あることがわかる活動だった。漠然とした「好き」もじっくりものに向き合うことで、自分自身を知る機会にもなったのではないかと感じた。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 くじら 組	2 月 16 日 (月)	鈴木詩織

● 実施計画

活動テーマ		
おかね ～おかねってなんだろう～ お金ってなあに？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日頃の生活の中で、お家の方との買い物や、お小遣い、キャッシュレス決済の場面などに触れる機会があり、「お金」という存在を意識し始めている。		
活動スケジュール		環境設定・準備物
時間	内容	
16:00	・買い物をする時に何が必要か問いか け、意見をまとめる。 ・「お金以外のものを使って買ったこと はあるか」など、幅広い意見を募る。 ・なぜ、何のために、お金があるのか考 える。 ・「お金がなかったらどうなるか」など、 深く問いかける。	【環境設定】 ・子どもたちが自由に発言できる雰 囲気を作り、 一人ひとりの意見を尊重し、受け止め る。 ・正解・不正解を明らかにするのではな く、 多様な捉え方や考える姿勢・態度を大 切にする。 【活動使用教材】 ・A4コピー用紙 ・鉛筆、色鉛筆
16:30	・自分がお店さんでお金を得るとし たら、何がいいか考える。 ・野菜や果物以外でもお金が得られる お店を考えてみる。 ・紙に描いてイメージを表現する。	【事前準備】 ・イラスト(昔のお金など) ・「物々交換しやすいもの」と「物々交換 しにくい もの」を用意しておく。 ※物々交換しやすい商品例: 玩具、(手で持てる)食べ物、服 ※物々交換しにくい商品例: 家・車(運べない)、電気(持てない)
16:45	・物が一個に対して、対等な価値を考 えてみる。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・最初に【お金って何だろう?】と問いかけた。現金を普 段使わないことが多いか話したため、どの場面で 使うことが多いか話した。</p> <p>・昔のお金に関しての話をした際には、『物々交換』を 知っている子がいた。昔はどうやって物のやり取りをし ていたか、お金がなかったらどうやって欲しいものを手に 入れるかを話際には、考えが膨らみ、話し合いが長くな るほど興味を持っていた。</p> <p>・その延長で、『自分がお金を得るためにどうしたらいい のか』『どうやって他の物を手に入れる?』と問いか け、紙に自分がやってみたいお店を書いた。昔の設定で【武 器】を売ってみたいや、【野菜を育てて売りたい】とい う子がいた。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <p>・模擬商品を手にすると「本物だとしたら、どれ と交換したいかな?」という問いかけに対し、真 剣に考えを巡らせる様子が見られた。 ・物々交換の際には、「車1台と食べ物交換す るとしたら、何個がいいかな?」と、物の価値を 想像しながら交渉する姿が見られた。 ・物の価値について知る良いきっかけがあっ た。</p> <p>・「誰も欲しがらない物を持っている人は、どう なるの?」という問いに、「かわいそう」や「交換 を諦めてしまう」といった他者への共感や限界 を感じる声が上がっていた。</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>・保育者の意見も交えて、お金のやり取りを伝え ることで話し合いが大きく広がったと感じる。 ・自分で作ったものを売ることを買ってもら いお金を得ることが大変と知った上で、さら に模擬のお金を使ってみんなでやり取りを体験 してみたいと感じた。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・子どもたちは、当初は単に「欲しい」という感情で交換 を始めていたが、交換の難しさや、物の「価値」のバラン ス(例:車1台と食べ物複数個)を体験することで、自ら考 え、試行錯誤する姿が見られた。</p> <p>・模擬商品に「家」や「車」といった持ち運べないものや、 「電気」といった持てないものを用意したことで、物々交 換の物理的な限界や不便さをより強く体感させること に成功した。</p> <p>・「誰も欲しがらない物を持っている子」への問いかけ は、物々交換の限界(二重の欲求の一致の困難さ)と、お 金の必要性(交換の道具としての役割)に気づくための 重要なターニングポイントとなった。</p> <p>・次回以降の活動では、今回気づいた「不便さ」を解消す る道具としての「お金」に、より興味関心を持って取り組 めるよう、今回の活動での気づきを丁寧に振り返りなが ら繋げていく必要があると感じた。</p>	<p>お金について、どのようなアプローチをするの か興味深くみていたが、物々交換を体験できる ようにしたことは、面白い切り口だと思った。子 どもたちの物の価値の捉え方も、面白い。なぜ お金が必要なのかについて学べる機会になる 活動であった。</p>